

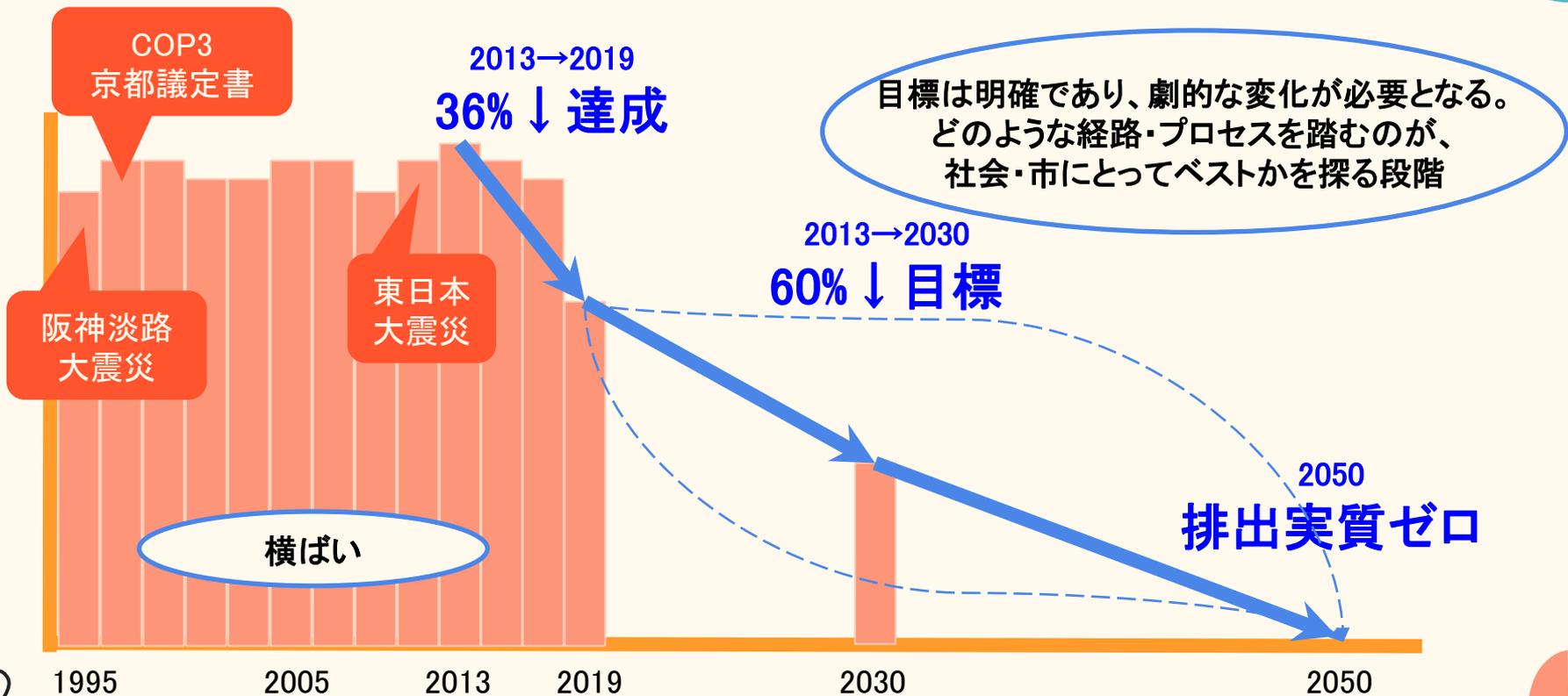
神戸市ゼロカーボンアイデア

KOBE

気候市民会議の開催の提案

発表：KOBE気候市民会議を考える会

今後の温暖化・気候変動対策のあり方



ゼロカーボンを目指すためには 社会のあらゆるところでの変化が必要

農林水産業

観光

エネルギー

住宅 建築物

インフラ

交通

消費

働き方

学校・教育



すべての領域に対して、神戸市が行動計画を立てることは出来ないが、
行政として神戸市全体のCO2排出量を実質ゼロにするという目標を持っている。
→様々な主体の協力が必要

KOBE

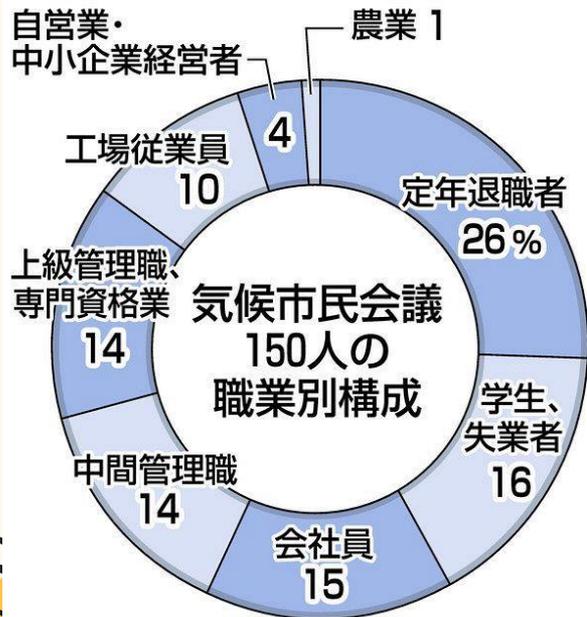
ここで…

気候市民会議の開催

の検討をしてみたいと思います

国内・海外での事例

「気候市民会議」とは、国や地域によって主催団体は異なるものの、一般的には、無作為抽出で集まった一般の市民(数十人~150人程度)が数週間から数ヶ月かけて気候変動対策について話し合う会議のことを言います。中でも有名なものが、フランスとイギリスの例。

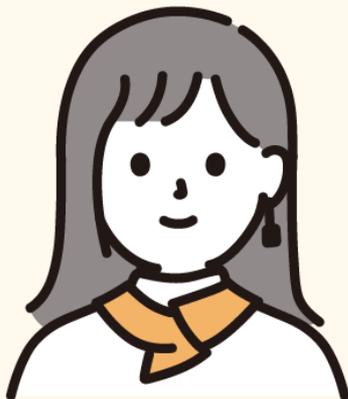


	フランス気候市民会議
ミッション	社会的公正を守りつつ、GHG 排出を2030 年までに40%減を達成するための政策提言
参加市民	150(無作為選出) 性別、年齢、職業、学歴、地域、居住地特性(都市部、中小市町村など)、2名のホームレスも選出
予算	540万ユーロ(約7億円)
日程	2019年10月から2020年6月まで計7週末
テーマ	消費、移動、住、食、働く/生産
アウトプットと政策提言の扱い	149の政策を提言。政府及び大統領に公開で提出。国民投票、議会採決もしくは行政命令とすることを約束

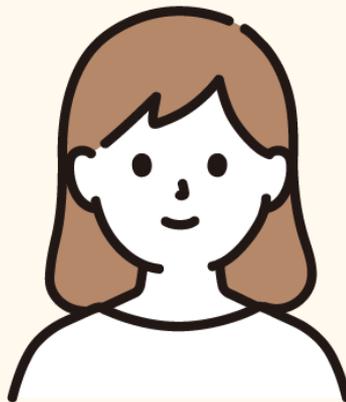
国内・海外での事例

	さっぽろ気候市民会議2020	武蔵野市気候市民会議	日本版気候若者会議
ミッション	実社会における課題解決を志向した実践的研究、議論の結果を市の取り組みに生かす	気候変動問題の当事者としての「気づき」や「行動変容」を市全体へ広げていく	「環境政策の早期実現」、「開かれた議論の場」、「発信による世論喚起」
参加市民	10～70代の札幌市民 20人 (3000人無作為抽出して案内状発送)	68人 (1500人無作為抽出→41人+公募→27人)	約82名
予算	不明、参加者には2万円謝礼	350万円	不明、2021年にはクラウドファンディング
日程・回数	2020年11月から2020年12月で計4回、オンライン	2022年7月から11月まで、計5回	2022年3月から4月まで、計5回
テーマ	消費、移動、住、食、働く/生産	2050年ゼロカーボン実現後の市の姿/モノを買う・使う・動く・働く(学ぶ)/住まいとエネルギー	需要・生活・産業・国際人権・未来社会など
アウトプットと提言の扱い	あらかじめ用意した40項目のビジョン要素それぞれについて、各参加者が、どの程度、実現が望ましいと考えているかを5段階で評価	市民一人ひとりの環境配慮行動を示すプランを作成→意見を参考に支援の取組を行うことにより、市民の行動を後押し	70項目の低減が環境大臣に手交、経産省や自民党などにも届けられた
体制	主催:実行委員会(研究機関) 協力:札幌市、公益財団法人北海道環境財団・・・	主催:武蔵野市環境政策課	運営:事務局 主催:日本若者協議会 共催:JYPS、後援:多数の学生団体

日本版気候若者会議に
参加したメンバー



武蔵野市気候市民会議に
参加したアンケート協力者



気候市民会議に関するイベント
の主催者側にいたメンバー



気候市民会議に関わった
若者に意見を聞いてみた

どのような会議となれば 意義・効果があるか？ アンケート調査

議論のテーマ



- 市民一人ひとりが行う行動
- 行政の施策
- 企業の取り組み

参加者層



- 全世代
- 若者世代

参加者の選び方



- 無作為抽出
- 有志（参加したい人）

アンケート結果

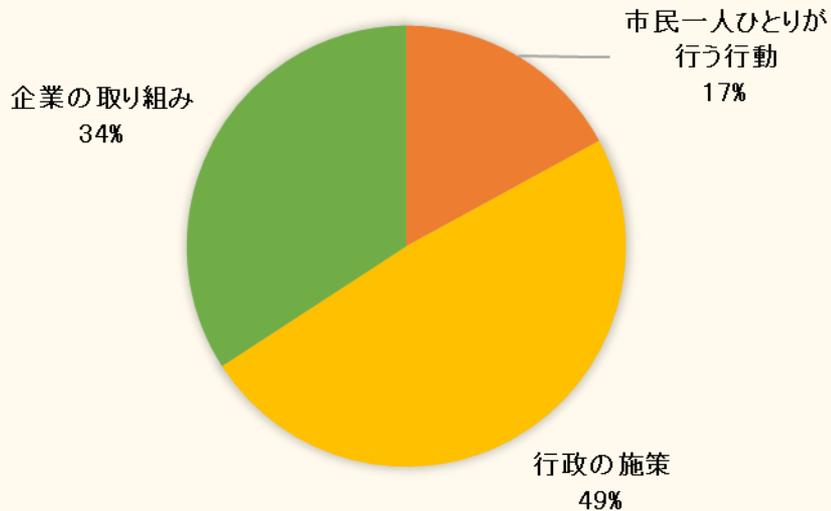
回答数：計43

募集方法：Googleフォーム・Twitterのアンケートの2種類

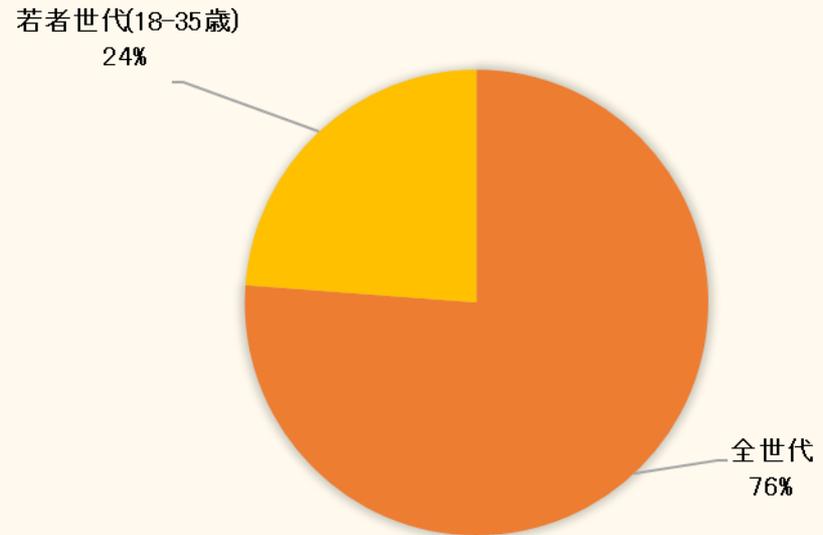
依頼先：所属団体を通じて/指導教員の担当講義を受ける生徒への依頼/SNSで不特定多数より

アンケート結果①

気候市民会議で話し合うテーマや
アウトプットはどうあるべきか？

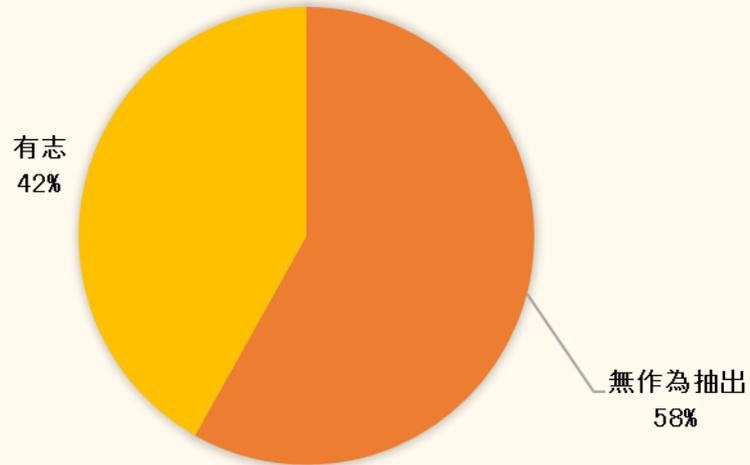


気候市民会議の参加者層は
どうあるべきか？

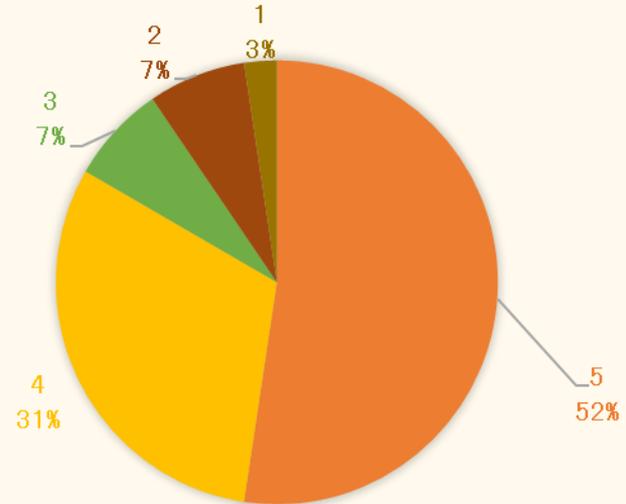


アンケート結果②

気候市民会議の参加者は
どう選ぶべきか？



気候市民会議は
良い取り組みだと思うか？



自由記述（一部抜粋）

気候市民会議の取り組みは日本でも盛んになりつつあるが、**関西エリアにおいて自治体レベルのものは未だ盛んでないように見受けられる**ので、よい発信になると思う。

神戸市の動きは小さな市町村の行政に大きな影響を与えます。神鋼石炭火力発電所が新たに2基も稼働し始めた神戸市で、気候変動に対する全市的な積極的な動きが起きることは大きな意味があります。またゼロカーボンシティは宣言したものの・・・という**これからの動きを模索している周辺自治体への影響も大きい**と期待しています。

気候市民会議は民主主義の社会実験の一つと理解しています。ですから、**特定の年代や思想ではなく無作為抽出を基本とすべき**だと思います。しかしそれだけでは、気候変動対策となりづらいので、科学的知見を持った専門家と並走する必要があります。・・・神戸大などから、協力依頼を行い、メディアも使って話題化できたらいいですね。

温暖化について**総合的な検討**も必要、炭酸ガス削減にこだわり過ぎている。

気象学者の視座を考慮した上で、日本の災害の**因果関係**を検証する地道な働きを要する。食料安保を優先する上でも、生態の循環を回復するために時宜にかなった提言だと信じる。

Firstly to **educate the conference participants about the facts** surrounding climate change and the available countermeasures. And see what suggestions they make based on a solid understanding of the issues.
Secondly to use the publicity generated by this to bring along the general public.

自由記述（一部抜粋）

気候問題では多くの多面的な課題がありますから、**様々な立場からの参加意識を盛り上げる**ことが求められます。その意味でこのような取り組みは大事だと思います。

全世代から無作為に選ぶことで、**アウトプットに説得力**が増すと思います。

フランスの例のように、あらゆる世代や所属の人がもし参加できれば、**立場の分断より相互理解**が進むのかなと思います。若者や環境に関心のある団体のメッセージはすでにありますが、そうでない人と公式の場で話し合った結論は過去にないと思うので、**今まで響かなかった対象**に響くといいなと思い、全世代や無作為抽出を選びました。

参加者は**全世代を対象としつつも、フューチャーデザイン**などの方法を使って、しっかりと将来を見据えた話し合いができるように設計するべきだと思います。

我慢するような取り組みは、だんだんと形骸化する。そこで、カーボンニュートラル、循環型社会、サーキュラーエコミーなどの観点で、**様々な立場の人がwin-winの関係になるビジネスモデルのような仕組み**、システムを考える。

1. 政策提言後にもフィードバックがあればいいなと思います。

例：〇〇審議会で提言①について話し合われました。気候市民会議の提言にあがった提言②に関する公募を実施しますなどの通知をする。

2. 兵庫県の加古川では**ディシディム**が使われていますが、今回の市民会議では使えないでしょうか？例えば、無作為抽出から外れた人はディシディムを通じて意見を伝え、市民会議内で反映させるなど。

※ディシディム：多様な市民の声を拾い上げ、政策に反映させるデジタルプラットフォーム

アンケート結果を受けた 神戸版 気候市民会議のイメージ

	神戸版気候市民会議(案)
ミッション	2050年ゼロカーボン社会に向けて、神戸市全体で推進すべき取り組みを市に提言するとともに、その後提言に関連する施策に対して継続的に市民がフィードバックできる仕組みを作る。
参加市民	神戸市に住民票のある市民を無作為抽出(年齢、職業、地域など)
予算	参加者には謝礼があるとよい
日程・回数	要検討
テーマ	2050年ゼロカーボン社会に向けて、CO2の削減という切り口以外にも循環型社会、サーキュラーエコノミーなどとも絡めながら、神戸市で取り組むべき施策を挙げる
アウトプットと提言の扱い	複数回開催されることとし、中間報告会で発表後、オンラインにて会議参加者以外で無作為抽出の過程で選ばれなかった市民からもアウトプットへの意見を募り合意形成のプロセスを取る。 最終的に出てきた取り組みは、市が既存の行動計画へ反映することを試みる と共に、提言に関連する施策に対して継続的に市民がフィードバックする。
体制	主催: 実行委員会(市民主導) 協力: 神戸市、大学・研究機関

特長：全世代を巻き込みながら将来世代の 視点に立つ対話を生む

アンケート結果より、会議の参加者層として「全世代」にすべきだ
という回答が多かった。

一方で、**2030年や2050年に社会の中心で活躍している世代は
現在20代やそれ以下の若者や、まだ生まれてきていない世代**である。

彼らの意見を尊重することは必要であるため、若者世代に絞っても
良いという考えもあるが、**移行期間であるこれからの10年や30年間
においては「いまの世代」がいかにアクションを取っていきけるか**を
議論していく必要がある。

そこでアンケートの自由記述欄にあった「フューチャーデザイン」
という手法を用いることを検討したい。

フューチャー・デザインとは、現世代が将来可能性を最も発揮できるような社会の仕組みをデザインすること、
あるいはそのための学術研究と実践のことです。
その有力な手法の一つが「仮想将来世代」という装置です。
まだ生まれていない将来世代になったとして、その将来世代が生きる社会をクリエイティブに想像する経験を経ると、その実現のために頑張りたいと思い、将来可能性が発揮されることが分かってきました。
(高知工科大学 フューチャー・デザイン研究所のHPより)

第2回

グループ・ディスカッション ③



③2020年の西条市の人々が、
どのような固定観念(常識)にしばられていたか
教えてあげてください。 【45分】

A 公共施設とはどういうものかと思い込んでいたか？

ア. 「公共施設は〇〇であるべきだ」

イ. 固定観念を拭くと、どのようなものが想定できていたか。

ウ. 2020年の事は過去形で、2060年は現在形で話して下さい。

例) 《誤》「2020年は、東京オリンピックがあるよね」

《正》「2020年は、東京オリンピックがあったよね」

愛媛県西条市の公共施設について考えるフューチャーデ
ザイン・ワークショップ開催報告より

特長：神戸らしさを取り入れた対話

神戸らしさとして、チームや仲間と話し合った結果として出てきたのは以下の点です。

・震災以後、まちづくりや福祉の分野で発揮されてきたボトムアップ型の市民活動

→民間企業や市民団体が地域の事情をより詳しく知っていることもあり、具体的なゼロカーボンに向けた行動計画を策定する上で、市民からを吸い上げると共にそういった地域での取り組みを市民と共に作り上げる姿勢が重要ではないか？

・国際都市として、神戸に定住している外国人が多い

→気候市民会議への参加者の多様性を担保するために多言語への対応を行う。
通常行政の温暖化対策に関するパブリックコメント等は、日本語で行われることが多く、日本語が得意でない外国人にとっては意見を伝える場面が限られている。
また気候変動対策に関して、異なる価値観・視点を持っている場合も多いと考えられる。
性別、年齢、職業、地域、居住地特性などに加えて、参加者の選定の基準に「外国籍」を入れるべきかは要検討。



**会議を開催すること自体にも意義があるが
重要なのはいかに2050年の社会を見据え
熟議を生み出す設計ができるか**

ご清聴ありがとうございました！

